総合周産期母子医療センター新生児科

2016年度総入院数は371人(前年比-14.1%)であった。入院の内訳は、在胎週数が未熟で出生体重の小さい超低出生体重児（出生体重1000g未満）が14人（前年度より-2人)、極低出生体重児（出生体重1000-1500g未満）が26名（前年度より+4人)、低出生体重児(出生体重1500-2500g未満)が93名（前年度より-51人）であった。在胎期間別内訳は22-24W: 6名、25-27W:14名、28-30W:14名、31-33W:25名、34-36W:55名、37W以上:213名であった。重症新生児仮死や遷延性肺高血圧症、胎便吸引症候群、重症新生児仮死などの出生体重2500 g以上の児は238名で総入院数の64.2%であった。

総依頼件数は517件（-26件）であった。入院依頼をお断りしなければならない件数及び当センターの院内他科に入院依頼した件数は146（+35件）となった。

当センターの新生児搬送車による総出動件数は181件（+153件）であり、その内訳は、迎え搬送122件、三角搬送4件、分娩立ち会い63件、back transfer51件であった。

特殊治療としては一酸化窒素吸入療法11件、脳低温療法26件、脳平温療法34件、血液透析3件、ECMO 2件、人工換気療法181件（入院患児の48.8%）であった。

死亡数は4名で剖検率は50.0%であった。染色体異常・奇形症候群などで死亡したのは3名(13torisomy:1名、多発奇形:1名、先天性横隔膜ヘルニア:1名）で、それ以外で死亡したのは1名（HIE:1名）であった。

2016年度在籍　常勤医（8名）:

清水正樹(部長兼科長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)
川畑　建(副部長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)
菅野雅美(医長、日本小児科学会専門医)
閑野将行(医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)
閑野知佳(医長、日本小児科学会専門医)
佐伯久子(医長、日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児学会専門医)
今西利之(医長、日本小児科学会専門医)
芳賀光洋(医員、日本小児科学会専門医)
常勤的非常勤(4名)：小林亮太、鳥山奏嵩、小竹悠子、岡井真史
後期研修医(4名)：平野紗智子、田代昌久、長谷川玲、江花涼